

# ピアノ指導者の言葉がけからみる指導の観点に関する研究 — “評価的やりとり” における指導者のキーワード分析から —

杉山 祐子<sup>1)</sup>・今村 初子<sup>2)</sup>・葛谷 悦子<sup>2)</sup>・田中 智子<sup>2)</sup>・富沢杏安音<sup>2)</sup>・丹羽美枝子<sup>2)</sup>  
橋本 亜紀<sup>2)</sup>・村瀬 潤子<sup>2)</sup>・森 摩樹<sup>2)</sup>・山田かおり<sup>2)</sup>・和田 早苗<sup>2)</sup>・岡田 泰子<sup>1)</sup>

## Study on the Viewpoint of Guidance from Language instructions by Piano Teachers — Analysis of Keyword in an Interactive Evaluation Method —

Yuko SUGIYAMA, Hatsuko IMAMURA, Etsuko KUZUYA, Tomoko TANAKA,  
Ayane TOMIZAWA, Mieko NIWA, Aki HASHIMOTO, Junko MURASE, Maki MORI,  
Kaori YAMADA, Sanae WADA, and Yasuko OKADA

保育士・幼稚園教諭にもピアノ技能は欠かせないことから、保育者養成校（以下、養成校）ではピアノ技能習得を授業として位置付けられている。しかし、学習者1人に設けられたレッスン時間の少なさから、学習者への励ましや練習成果への評価の言葉がけを紙ベースでやり取りした。指導者からの文字化された言葉がけを分類した結果、学習者に共通した言葉がけと、個別対応の言葉がけが使い分けられており、伴走型指導として学習者のペースに合わせた言葉がけを行っていることが分かった。また、学習者側からは、文字化された励ましを自分のペースで読めることがメリットと受け止められていた。今後、指導者の観 points の調査を継続し、学習者と学習過程にあった言葉がけについて検証していきたい。

キーワード：ピアノ指導者、“評価的やりとり”、言葉がけ、文字化

### I. 問題と目的

保育士・幼稚園教諭にもピアノ技能は欠かせないことから、保育者養成校（以下、養成校）ではピアノ技能習得を授業として位置付けられている。しかし、保育者養成校入学時点で、ピアノ技能は個人差が大きく、全くの初学者から10年以上の経験者まで多様な技能の学習者に個別の対応が求められる。レッスン時間でみると、学習者1人に設けられたレッスン時間は10数分程度で、指導者は学習者への個別対応として、技術指導を最優先しなければならない。従って、学習者への励ましや練習成果への丁寧な評価の言葉がけが十分に行えない場合もある。

学習者にとっても、自分の思いを十分に伝えられることができない状態も発生するであろう。

この課題を解消する方法の1つとして、授業中には伝えきれなかったことを、学習者と指導者の評価に関する感想のやり取り（以下、“評価的やり取り”）を実施している（杉山, 2014）。“評価的やり取り”は、自分の書き込みや指導者からの言葉がけを文字で残すことによって、評価の可視化が図られ、後からでも振り返って言葉がけや自分の言葉を確認することができた（杉山ほか, 2017）。これにより、「普段あまり話せないことを文字で伝えることができた」という回答が多くあったことは、指導者と学習者の積極的な関係作りが促進された。長松ら（2014）は、教

1) 短期大学部幼児教育学科 2) 中部学院大学短期大学部（非）

育あるいは学習の場面における「教師—学習者」の関係において、指導者は学習者の習熟度に基づいて適切な教示方法を与える能力を有することが求められると述べている。その手がかりとして、リアルタイムな指導に加えて、文字化した指導や評価を振り返りの材料とすることは有効であった。

しかし、実施した満足度調査から、「文字でのやり取りでは理解が難しい部分があった。」という学習者の意見も見られた。この“評価的やりとり”では、学習者にどのような言葉がけをすることが後になって読む場合の有効な指導になるのかを、指導者側は一層意識する必要性が明らかになった。それぞれの指導者が学習の時期に合わせてどのような言葉がけを行っているかの共通理解は、課題となった『理解が難しい』部分の解消となり、学習者の技術や意欲の一層の推進に有効であると考えた。

そこで本研究は、“評価的やりとり”に文字化された指導者のメッセージを週ごとに分析し、どのような共通性があるか、学習経過による変化はみられるのかを明らかにすることとした。さらに、学習者側に“評価的やりとり”に関する意見の収集をすることとした。

## II. 方 法

### 1. “評価的やりとり”

“評価的やりとり”とは、図1のような記録用紙を用いて、学習者と指導者のコメントを毎週やり取りすることを言う。学習者側のコメント記入欄は、2項目設けている。1項目目は、授業(レッスン)での成果を記入欄である。授業(レッスン)を受けて、うまくできたことやできなかったこと、授業(レッスン)では伝えきれなかったことなど、自由に記述することができる。この項目は、指導者に対し、伝えたいことが中心に書かれている。2項目は、授業(レッスン)まで1週間の練習についてである。この項目は、学習者自身の反省と位置づけ、自分の練習の在り方を文字化することで、客観的に振り返り、次週の目標を持つための項目である。この2項目はどちらも自由記述である。授業の終了後、個別に記入する。指導者は、学習者のレッスンでの様子や学習者の記録に対し言葉がけを記入した。

### 2. “評価的やりとり” の分析

対象者は、“評価的やりとり”に関わる対象者は、C短期大学保育者養成課程2年生93名と、その指導を担当しているピアノ指導者10名である。期間は、2017年4月11日から5月23日の7週間とした。手続きとしては、学習者と指導者の感想と言葉がけの記録である“評価的やりとり”の7週間分の記録の中から、指導者の言葉がけに焦点を当て、分析した。各週に記録された指導者のコメントから、キーワードを抜き出し、カウントした。そのキーワードの観点は、学習者への励ましになる言葉とした。

2017年度 音楽Ⅱ 練習記録表 ①		
グループ：富沢・葛谷・山田 個人：先生 学籍番号 氏名		
日程	前期の目標：	練習への取り組みの目標：
1 4/11		
先生のコメント		
	レッスンの成果・感想	練習量についての振り返り
2 4/18		
先生のコメント		
3 4/25		
先生のコメント		

図1 “評価的やりとり” 用紙 (一部)

### 3. “評価的やりとり” に対する質問紙調査

7回目の記録の時点で、この“評価的やりとり”に関する質問紙調査を学習者に実施した。調査内容は、以下の4項目とした。回答法について、質問1・4は6件法と自由記述の回答、質問2・質問3は自由記述とした。

質問1. 先生からの言葉がけは、読みましたか。

質問2. 先生という言葉がけの中で、どんな言葉が『励みになった』と思いますか。

質問3. 先生という言葉がけの中で、どんな言葉が『理解できなかった』ですか。

質問4. レッスン以外でのこのような記録は、練習意欲の向上に有効だと思いますか。

## III. 結果と考察

### 1. 指導者の言葉がけの全体的分析

学習者と指導者の感想と言葉がけの記録である“評価的やりとり”の7週間分の記録から、各週に

表1 週別指導者のキーワード数

週→	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	計
キーワード数	164	178	148	128	205	175	96	1094
割合	15.0%	16.3%	13.5%	11.7%	18.7%	16.0%	8.8%	100.0%
キーワードの種類数	52	48	31	32	53	48	28	292

表2 週別指導者の主なキーワード

キーワード	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	計	割合(%)
がんばって	31	27	24	21	23	31	16	173	27.1
楽しみ	4	14	18	15	9	5	5	70	11.0
弾けた	0	17	0	16	24	0	12	69	10.8
練習	12	14	9	8	11	5	0	59	9.2
楽しく	7	4	12	0	6	13	5	47	7.4
レパートリー	9	8	11	2	3	0	5	38	5.9
チャレンジ・挑戦	6	7	2	3	2	3	4	27	4.2
自信をもって	0	4	3	3	7	4	4	25	3.9
丁寧に	1	3	2	8	6	3	1	24	3.8
頑張った	0	1	5	0	0	4	11	21	3.3
一緒に	9	0	4	6	1	0	0	20	3.1
大切	1	6	0	0	4	5	0	16	2.5
歌う	0	0	7	0	0	0	9	16	2.5
この調子・順調	0	0	0	4	7	0	1	12	1.9
素晴らしい	0	0	0	3	0	5	3	11	1.7
イメージ	0	1	3	1	0	5	1	11	1.7
計	80	106	100	90	103	83	77	639	

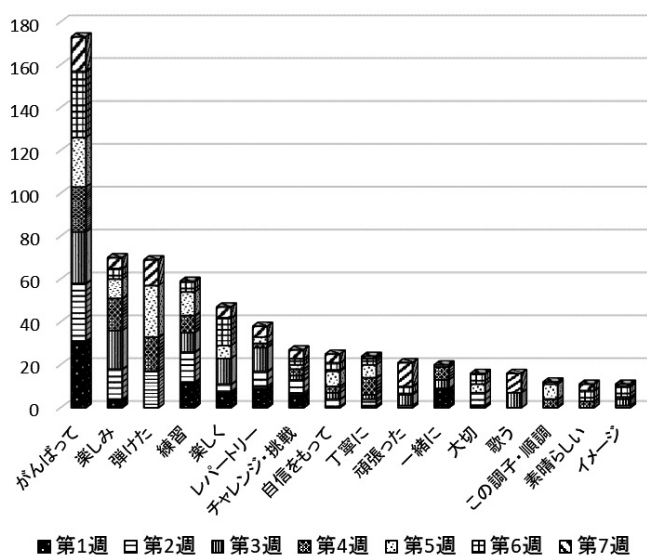


図2 指導者のキーワードの分布

記録された指導者のコメントをキーワードとして分類した。今回カウントしたキーワードは主に学習者への励ましになる言葉ととらえられるものとした。そのキーワードの週別数を表1に示した。10名の指導者が毎週90名以上（欠席等で人数は変動する）に提供した言葉がけの総数は、1094個であった。抽出したキーワードの総数は292であった。この数値から、指導者の学習者に合った言葉がけの多様性がみら

れた。

次に、全週に共通すると思われるキーワードを図2と表2に示した。抽出総数292中、出現総数が1%以上あったキーワードは16種類であった。それ以外の276のキーワードは、出現数が少ないことから、幅広い多様な言葉がけがなされていることが分かった。

1番多かったのが、「がんばって」の言葉がけであった。この言葉は、学習者に対する全般・全体的

な励ましを表しており、言葉がけの最後の結びの言葉としてよく使われた。「がんばる」に関わるのキーワードは、「頑張った」としても現れていた。これは、「がんばって」を一方向的に言うのではなく、その先の見届けがなされており、学習者の努力を認める言葉がけととらえられる。

また、「楽しみ(です)」が2番目に多かった。この言葉は、学習者の成長を自分のことのように楽しみに感じているという伴走型の指導と捉えられる。しかし、同様の意味を持つ「期待している」は、1%以上には入らなかった。この言葉はともすると、学習者にプレッシャーととられる場合もある。指導者はプレッシャーではなく、指導者自身が楽しんでいう気持ちを伝えようとしていることが分かった。ピアノの練習をつらいと感じている学習者は多い中、学習者自身に対しても「楽しく」を奨励していた(4.3%)。「一緒に」が1.8%あった。このキーワードは伴走型指導として、7週の前半に多く表れており、第1週が最も多かった。このことから、学習過程の目指す形は、指導者対学習者ではなく、ともに進み、気持ちを共有する伴走型であることがみられた。また、学習者の成果に対する評価を表す言葉がけがみられた。「弾けた」が3番目に多く、練習成果を端的に言葉にされている。短い対面式のピアノレッスンでは伝えきれなかった評価をできるだけ学習者に伝えようとしていることが分かった。ピアノの技能向上には、練習の継続が重要である。このことから「練習」のキーワードは第4番目に多く挙がっていた。表2から、この「練習」のキーワードは前半の週に多く見られるが、後半では減少していることから、学習のペースが構築し始める時期には不要になっていると考える。指導者は、学習者の学習のペースを適切に判断し、言葉を選んでいることが分かった。7週の半ばでは、「この調子・順調」の言葉がけが現れた。指導者は学習者のペース配分に配慮した言葉がけを重視していることが分かった。また、「レパートリー」や「チャレンジ・挑戦」のキーワードが7週の前半に多く見られた。学習初期にこれらの言葉がけが行われていることは、この授業で目指してほしい姿を示している様子がうかがわれた。

以上の集計から、指導者の言葉がけからみる指導の観点は、画一的ではなく、学習者一人一人に細や

かに行われ、伴走型であることが分かった。

## 2. 指導者の言葉がけの週別分析

1.に挙げられたように、指導者は伴走型指導として学習者のペースに合わせた言葉がけを行っていることが分かった。そこで、学習者の学習経過とともにどのような変化が見られるかを確かめるため、各週の言葉がけを分析することにした(表3)。

### 2-1. 第1週(4月11日)について

第1週は授業の初回であるため、1年間の授業の指針、目標に関するキーワードが多かった。このスタート地点では、学習者の技能や意欲はさまざまである。指導者にとって、学習計画を個別に配慮し進めなければならない。第1週では、学習者の状況をまだ十分に把握できていないため、言葉がけの観点も画一的な傾向が見られた。また指導者と学習者は初対面であるということから、今後の学習者との良い関係を構築しようという意図を持った言葉がけがみられたことが特徴とされる。この学習初動の時期によりスタートが切れるよう、また1年間の成果がより発揮できる方向性を示すことができる言葉が選択されていることが分かった。

課題として、この学習開始の時期に練習意欲を喚起できる言葉がけが全員に行き渡ることができているかである。良い学習姿勢を身につけることはこの学習開始時にかかっていると言える。指導者の言葉がけによって、学習者は1年の目標を持ち、意欲的な学習となるので、指導者の役割は重要である。特にピアノ技能に不安を感じている学習者に対しては、その不安感を和らげる必要がある。まだ授業が始まったばかりの初対面であることから、個別対応というより、指導者の所信表明としての言葉がけになるであろう。それは指導者の判断力が問われるであろう。この対応が適切になされているかを検証する必要がある。また、学習者は卒業後、保育現場においてピアノ技能の厳しい現実と向き合うことになるであろう。

### 2-2. 第2週(4月18日)について

第2週のキーワードは、指導と評価の二つのカテゴリーがみられた。まず指導については、「頑張って」が最も多く、「楽しみにしています」、「レパートリーを増やして」、「期待しています」が続く。「楽



しんで」、「大切に」、「イメージを持って」、「工夫」、「注意して」など、学習者の取り組みや努力をまず認め、たうで、激励と今後の課題について端的に述べられている言葉がけがされていた。このように、励ましの言葉の選択が特徴であった。また、評価については、「よく弾けました」、「よく練習してあります」が多く、「とても素敵です」、「感動です」、「素晴らしい」など、学習者の成果に対し、できた点や良い点を、少々大げさとも取れる言葉で評価している。これはまず学習者の練習意欲を刺激しているのととらえられる。これらのことばの選択は、指導者なりの意欲喚起を目的としたニュアンスの考慮がうかがわれた。また、指導者からの言葉がけに対し、学習者側も前回の指導者の助言も読みながら感想を記述していることに慣れ始めた時期であり、直接的な会話とは別の、書く行為でのコミュニケーションを加速する工夫が見られる。第2回目の授業の役割は、第1回目の体験を踏まえて少し慣れた状況で、さらに次への練習の姿勢と授業への積極的な参加促進である。学習者側は、自分の成果に対する少々大げさな評価と具体的な指導をどのように捉えているかを、学習者側の調査で見る必要があろう。“評価的やりとり”での双方向のやり取りの学習者の感想を読むことで、指導者は対面式レッスンでは発見しきれない学習者の他面を知ることができる。記録として残すという役割としても、明確でより具体的な言葉がけと、各々の達成可能な目標、課題を端的に文章にしていくスキルがさらに求められる。

### 2-3. 第3週（4月25日）について

第3週は、2回目の対面であり、指導者2名が一度ずつ同じ学習者を担当し終えて、それぞれからのコメントが出そろった週という背景がある。まず、励まし伸ばそうとする思いから、「がんばって」「がんばろう」が24回と突出している。「楽しみにしている」「楽しんで」も合計すると30回と目立ち、それぞれの指導者からの期待の大きさがうかがえる。しかしまだ、個別の対応がうかがわれる言葉がけは少ない。徐々に、学習者と指導者の個性が表出する時期に向け、まずは、学習の基本姿勢や目標を皆で共有する段階を示していると考えられる。「レパートリーを増やす」といった具体的な言葉がけが11回と多く、学習の初動時期に学習者の目標を明確にしていることがわかった。「練習」はピアノ学習に於

いて重要なキーワードである。しかし、9回と少ない。この段階での学習者へのプレッシャーにならないよう、指導者の配慮がみられる。これに対し、出現回数は1回ではあるが、「コツコツと取り組む」「少しずつ、もう少し」という特徴的なキーワードが表出されていた。この言葉は、過度な負担を与えず、高すぎない目標を立てることが重要であることを示唆し、「練習」という直接的なキーワードに代わって、いかに学習者にピアノの練習に取り組ませるかという指導者の配慮が見られる。

課題として、指導者各々の視点の違いや指導方法、感じ方等を、常に話し合い相互理解を深めることで、より良い学びの方向性を共有することである。その為には、常に有意義な言葉がけを指導者が考え続け、適切な時期に適切な言葉がけを選択できる指導力の向上が重要であろう。将来の現場に自信を持って立つことの出来る学習者を送り出せるよう、指導者側の意識向上に一層努める必要がある。

### 2-4. 第4週（5月2日）について

この第4週では、1年間の担当指導者の理解が落ち着いたところである。一番多かったキーワードは、これまで同様「頑張って」であった。「頑張って」は、全週にわたり1位・2位を占めている。また、「弾けていた」という評価のキーワードが現れたことは、この時期による特徴と考える。学習に慣れ始めた学習者に対して指導者からの一方向の指導の言葉がけが、学習者側の学ぶ姿勢を評価する段階に入ったことを示している。また、「次回聴かせて下さい」、「計画的に取り組もう」、「レパートリーを増やそう」など、学習者個人が継続的に取り組むべき課題について、指導者が的確に観察し提供している個別対応がみられた。「上達しています」、「力がついてきた」など、前回からの違いを明確に述べている言葉がけは、学習者1人1人を観察した結果の評価であり、学習者が指導者に認められていると実感できる言葉がけになっていた。「楽しみにしています」、「素晴らしい」、「明るくいい感じ」などの明るい雰囲気イメージさせるキーワードも多くみられた。練習の負担感を感じ始めるこの時期にこそ重要な言葉がけであることが推察された。学習の初動時期として1か月が経過した時期として、個別対応のキーワードが増え始めたことが特徴と考える。

課題として、一番多くみられた「頑張って」につ

いて、指導者にとっては使いやすい言葉ではあるが、安易に使う傾向がみられた。「がんばって」の中に学習者が真に必要とする要素を加えて文字化できるよう、根気と誠意をもって学習者を観察し、言葉を選ぶことの重要性が感じられた。

#### 2-5. 第5週（5月9日）について

第5週は、全週の中で最もキーワードが多く出現していた。その理由として、指導者が学習者の個性を把握でき、人間関係の構築ができた時期と推測される。これまでの学習者共通の言葉がけの傾向が、この第5週からは1人ひとりの個性にあった言葉がけがなされている様子が見られた。最も多かったキーワードは「とても上手に弾けた」であった。この第5週は指導者が同じ学習者に対し3回目に担当していることになる。指導者がそれまでの2回のレッスンでようやく学習者の特徴を把握し蓄積した結果、1人ひとりの特徴をとらえた言葉がけに変化したと考えられる。これは指導者側だけでなく、学習者側にとっても、指導者とのコミュニケーションが構築し始めた時期と推測する。学習者はレッスンに慣れたことにより、技術面や意欲面で長短の特徴が現れる。この時期での励まし方によってその後の学びに影響するであろう。この時期に、学習者をほめる言葉がけである「とても上手に弾けた」や「とても良い」「自信を持つ」や、今後を期待する「楽しみ」、順調さを認める「この調子」、「ゴールが見えた」など、学習成果に対する多様な評価がみられた。

また、減少したキーワードとして、「レパートリー」があった。このキーワードは第1週や第3週よりも目立って減少した。これは、「とても上手に弾けた」ことでレパートリーが増えていることが表現された結果と考える。同じ意味であっても時期によって言葉の選択が変化していることが分かった。

#### 2-6. 第6週（5月15日）について

第6週のキーワードの分布から、10以上のキーワードは「頑張って」、「楽しく」の2つがみられた。それ以外では35種類のキーワードが挙げられ、多様性がみられた。中でも「しっかりと」は9で、学習をより堅固にするための言葉がけがされていることはこれまでの週にはみられなかった。第6週目の特徴として、学習者の学習確立を目指した言葉がけがみられる点であると考えられる。また、「聴かせて」、

「弾けるよ」は、学習者に自己表現力を引き出すキーワードと考える。学習者の実力差も現れ、意欲面に対する個別対応が必要となったことを意味していると考えられる。1%以下のキーワードは23あり、多様な言葉がけが提供されていた。指導者がピアノの直接的指導以外に、文字として学習者一人一人に働きかけを工夫している表れと捉えられる。

もう1つの特徴として、学習者の協働学習を促すキーワードがみられるようになったことである。「協力して」や「工夫」、「よろしくね」、「ありがとう」のキーワードの前に「みんなで（に）」がついている場合が多く、指導者と学習者の1対1の関係から自立して、学習している仲間とともに向上してほしいといった、自律的学習や協働学習の方向へ指導者が促していることが分かった。

指導者の言葉がけを文字化することで、いつでも見ることができる点や、落ち着いて受け止めることができる点において、学習者は「励まされた」、「嬉しい」という気持ちの再認識ができるであろう。そのために、学習者一人一人の段階に沿うことや、練習状況や仕上がり具合をみて、その場で適切に判断し、言葉がけを書き分けていく指導者のスキル向上も必要と考えられる。

#### 2-7. 第7週（5月23日）について

第7週では、全週の中でキーワードの抽出数が一番少なかった。今回は、指導者の技術指導ではなく励ましのキーワードに焦点を当てた。この第7週では、励ましが減少し、技術的指導のキーワードに移行していた。前期15回中、第7週目は折り返し地点に当たる。この時期に助言の変化がみられたことは、指導上の転換期と位置付けられている。「頑張りました」は、他の週同様最も多いが、数が減少した。このキーワードを提供する時期が過ぎていることの表れととらえられる。それに対し、「よく弾けています」、「頑張りました」という、学習者の取り組みに対する評価やほめ言葉の割合が上がっていた。学習者の努力や意欲に対する評価が高まっていることから、第6週からみられ始めた学習者の自律的学習に観点が移っていることが分かった。「楽しく」、「歌いやすく」、「歌う楽しさを共有」など、表現に対する視点も多くなったことも特徴の1つと位置付けられる。また、今後の目標設定の言葉がけもみられた。「レパートリーを増やす」、「新しい曲に

表3 指導者の週別キーワード（一覧）

第1週		第2週		第3週		第4週		第5週			第6週		第7週	
キーワード	数	キーワード	数	キーワード	数	キーワード	数	キーワード	数	備考	キーワード	数	キーワード	数
頑張る	31	頑張ってください	27	頑張って がんばろう	24	頑張って	21	とても上手に弾けた	24	よく弾け	頑張って	31	がんばりましょう	16
練習する	12	良く弾けました	17	楽しみにしている	18	弾けていた	16	頑張る	23	楽しく	13	よく弾けている	12	
一緒に	9	楽しみにしています	14	楽しく 楽しんで	12	楽しみ(楽しく・楽し)	15	急がないように	13	ゆっくり	しっかりと	9	よくがんばりました	11
目標	9	(しっかり)練習してく	14	レパートリーを増やす	11	丁寧に	8	練習しよう	11		聴かせて	6	歌いやすく弾く	5
レパートリーを増やす	9	大変良かった	10	注意して 気をつ	9	練習している	8	楽しみ	9		弾けるよ	6	楽しく歌う	5
よろしくお願いします	9	レパートリーを増や	8	練習	9	聴かせて	7	とても良い	8		イメージして	5	楽しみにしている	5
楽しく	7	チャレンジして	7	しっかり弾く	6	出来る	6	くり返し練習	8	毎日続	素晴らしい	5	レパートリーを増やす	5
チャレンジする	6	とても大切なことで	6	がんばりました(結果)	5	一緒に	6	この調子	7	このまま	大切に	5	自信をもって	4
サポートする	5	できるよ	5	一緒に	4	テンポが良い	4	自信を持つ	7		楽しみに	5	難しい曲にチャレンジ	4
目標に向かって	5	期待しています	4	笑顔で	4	伝わってくる	3	楽しそう	6		練習しよう	5	大きな声	3
習得する	4	気を付けましょう	4	大きい声で歌う	4	素晴らしい	3	丁寧に	6		慌てずに	4	すばらしい	3
楽しみにする	4	自信を持って	4	テンポ良く	4	チャレンジする	3	なめらかに弾けた	6	スムーズ	頑張ったね	4	歌う楽しさ共有	2
努力する	3	とても素敵です	4	あと1歩	3	自信をもって	3	合格	4		自信をもって	4	応援している	2
目標を達成する	3	楽しんで	4	歌いやすい	3	この調子	3	ゴールが見えた	4		素敵に	4	完成度を上げる	2
あきらめず	2	しっかり弾けるように	3	自信を持って	3	素敵に	2	大切	4		できるよ	4	元氣よく	2
課題が増える	2	注意してみてきて	3	前進する	3	レパートリーを増や	2	とてもきれい	3		慣れる	4	コツコツできている	2
活用する	2	丁寧に演奏できる	3	なめらかに スムーズ	3	集中して	2	工夫する	3		表情豊かに	4	あきらめないで	1
曲数をこなす	2	さらに良いと思いま	3	雰囲気 イメージ	3	皆が歌いやすく	2	苦手	3		応援	3	歌いやすい弾き方	1
時間をかける	2	よく練習してあります	3	意欲 熱意	2	明るくいい感じ	1	よくわかる	3		協力して	3	歌えている	1
上達する	2	感動です	2	最後まで	2	笑顔で歌えている	1	レパートリーを増や	3		工夫して	3	嬉しい	1
ついてきて	2	子どもたちに伝わり	2	挑戦する	2	順調に	1	練習できた	3		成果	3	笑顔で	1
取り組む	2	仕上げてください	2	丁寧に	2	計画的に取り組む	1	わかりにくい	3	わかっ	大変ですね	3	歌詞を覚える	1
レッスンを	2	素晴らしい	2	忘れない	2	真剣に取り組む	1	あと一息	2	あと少し	チャレンジして	3	気を抜かずに	1
一生懸命	1	注意しましょう	2	片手ずつ	1	沢山曲に取り組む	1	相手にうたいかける	2		丁寧に	3	曲想を生かす	1
応援する	1	わすれずに	2	コツコツと取り組む	1	○○さんなら	1	残念	2		よろしくね	3	声が出ている	1
応用が利く	1	あきらめない	1	心で歌う	1	前向きな姿勢	1	どんどん進める	2		あと少し(もう少し)	2	この調子	1
音楽的表現	1	焦らず	1	少しずつ もう少し	1	完璧です	1	進める	2		ありがとう	2	丁寧に	1
期待する	1	頭に入れましょう	1	流れるように	1	特徴をとらえて	1	前進	2		覚える	2	表情豊かに	1
曲を進める	1	いうことなしです	1	何度も 繰り返して	1	前のレッスンを忘れない	1	チャレンジ	2		期待して	2	余裕をもって	1
訓練する	1	意識する	1	リズムをつかむ	1	上達している	1	できるよ	2	やれば	気を付けて	2		
心がけ	1	イメージを持って取	1	熱意		力がついて	1	直す	2		元気に	2		
コツコツ	1	確認しましょう	1			前進しよう	1	はじめよう	2		表現して	2		
支える	1	頑張っています	1					みんなで弾く	2		負けないで	2		
実現する	1	聞いてください	1					練習方法	2		良かった	2		
自分の力	1	また聴かせて	1					ワクワクする	2		練習してある	2		
卒業後の自分を思い描く	1	工夫しましょう	1					忘れない	2		諦めず	1		
充実した	1	合格してください	1					明るく元気に	1		安定して	1		
やれる	1	実践力をつけましょ	1					生かす	1		笑顔で	1		
少しずつ	1	自分の蓄えとなって	1					一緒に	1		えらい	1		
成長する	1	自分の幅を広げる	1					キープする	1		惜しい	1		
絶対に	1	準備してきてください	1					気を付ける	1		面白い	1		
大切	1	素敵になります	1					原因がある	1		確実に	1		
たのしい	1	素晴らしい個性	1					効率が良い	1		かっこいい	1		
力がつく	1	演奏から伝わってき	1					心掛ける	1		感心	1		
力を入れる	1	努力しましょう	1					真剣に	1		さらに良い	1		
着実に	1	弾けます	1					素敵な先生になれる	1		相談を	1		
丁寧に	1	マスターしましょう	1					成果が表れる	1		無理しないで	1		
ピアノに触れる	1	見直しましょう	1					大丈夫	1		やさしく	1		
弾けるようになる	1							積み重ねた	1					
ファイト	1							慣れる	1					
待っている	1							見直す	1					
学ぶ	1							余裕をもって	1					
目指す	1													
計	164	計	178	計	145	計	128	計	205		計	175	計	96

チャレンジ」、「完成度を上げる」などは、残り8回の学習過程でのステップアップを促す観点となっている。一方、練習が出来ていない学習者に対する励ましが必要な時期が到来し、学習者個々に対する工夫された言葉がけに観点が移行した様子が見えられた。

今後の課題として、これらの言葉がけの観点が、学習者にとって有意義であるかどうかを検証する必要がある。指導者のこのような観点が学習者にマッチしているか、文字による言葉がけが学習者に必要とされているかを確かめることにする。

### 3. 質問紙調査の分析

質問紙調査の回答は、93名の学習者のうち85名から得られ、回収率は91.3%であった。以下に、質問毎の結果と考察を述べる。

#### 3-1. “評価的やりとり”の活用度について

「指導者の言葉がけを読みましたか」の問いに対する回答は、3以下の評価（読まなかった、読む気にならなかった）は0であり、全ての学習者が、読んだとの回答をした(表4)。その内訳は、最もしっかり読んだとする『6』の評価が78.8%と4分の3以上を占めた。『5』の回答は14.1%、『4』の回答は7.1%という結果であった。



表4. 先生からの助言は、読みましたか n=85

評価⇒	6	5	4	3	2	1	無記入
人	67	12	6	0	0	0	0
割合(%)	78.8	14.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0

次に、自由記述の内容を分析する。【読んだ】に付随する言葉として、「しっかり」、「毎回」がみられ、学習者は積極的に読んでいたことが分かった。また、「学習意欲に繋がった」とする記述が18件あった。レッスンでの直接指導以外の言葉がけが、この取り組みの意図である意欲の喚起に結びついていることが分かった。「励まされた」、「がんばれた」、「やる気になった」など、指導者の言葉がけは、学習者個人に届いており、学習者も自分に向けられた言葉がけとしてしっかり受け止めている様子うかがわれた。特徴的な点は、「練習する時の手助けになった」が15件あった点で、技術面での助言として自宅での練習手段の参考にしていることが分かった。文字に残されていることで、何度も読むことができる点から、具体的なイメージを持つことができ、練習に役立てていると考えられる。また、自分に対する指導者の評価を意識している記述が8件みられた。「褒められると嬉しい」、「自分に対して指導者の目が行き届いていると感じられる」など、指導者の自分に向けられる観点を意識している様子うかがわれた。

これらのことから、この指導者と学習者双方のやり取りにおいて、学習者は指導者のコメントをかなりしっかりと読んでおり、影響が大きいことがわ

かった。また、大多数の学習者の意欲の向上や練習の手助けなど、プラスに作用していることも分かった。このように、対面式のやり取りに加えて紙面でのやり取りがあることで、自分に対する指導者の指導、励ましをさらに実感できている様子うかがえた。

### 3-2. キーワードの有効性について

「指導者の言葉がけの中で、どんな言葉が『励みになった』と思うか」の問いに対する回答について、手元に“評価的やりとり”用紙を手元に置いた状態で回答を求めたにもかかわらず、キーワードの回答があまり出現しなかった(表5)。回答の内容は、感想が述べられている場合が多かった。「次回への励みになった」との回答が22.4%と多く寄せられた。次に多かった回答は、「指導者からの語りかけに、本心嬉しく思った」が12.9%であった。この言葉に類似した、気持ちを受け止めてもらえた実感する内容の回答が合計で23%以上となり、学習者は指導以上に、自分を理解してもらうことを望んでいることが分かった。これは自己肯定感により学習が推進することからも、指摘指導より理解する観点到重点を置く必要性うかがわれた。

また、「一緒に頑張りましょう」や、「この調子で」というキーワードが選択されていることから、伴走型指導の観点も受け止められていることが分かった。さらには、ペース配分の調整である、「コツコツ」とも回答があることから、無理をしない持続的練習の重要性も理解されていることが分かった。

表5 『励みになった』と思う言葉がけは何でしたか n=85

キーワード	人	割合(%)
・ 次回への励み言葉(努力する手だて)を教えてくださいました。	19	22.4
・ 先生から、一緒に「頑張りましょう」と語りかけられ本心嬉しく思いました。	11	12.9
・ 学生の気持ちをしっかり受けとめていただける先生でよかった。	9	10.6
・ この調子で頑張ってるね。	7	8.2
・ この調子でコツコツと練習を積んでいくのを楽しみに期待しています。	6	7.1
・ 「やれば できる」という勇気と「やる気」を助言していただきもっと練習するぞ!!	6	7.1
・ 自信を持って弾いていたね。	4	4.7
・ 努力のあとがわかる弾き方で上達が目立ちましたよ。	3	3.5
・ 指づかいに気を使っていたね。	2	2.4
・ 納得するまでの練習のようすがわかる弾き方でしたね。	2	2.4
・ 楽譜をよく見ていてねいに弾けていたよ。	2	2.4
・ 先生の体験をわかるよう話してもらい「やる気」を出しました。	2	2.4
・ 楽しく発表できるように真剣に取り組んでいこうね。	2	2.4
・ テンポがあった弾き方をしていたね。	1	1.2
・ 実習の事も応援していただきました。	1	1.2
・ なし	2	2.4
・ 無回答	6	7.1



表6 先生の助言でどんな言葉が『理解できなかった』ですか n=85

内容	人	割合(%)
・なし	31	36.5
・特になし	24	28.2
・特になく思い浮かばない	1	1.2
・分かりやすいコメントでよく理解できた	2	2.4
・理解できないことはなかった	3	3.5
・ドレミの音価がわからない	1	1.2
・細かいリズムなどは想像がつきにくいので(文より)耳で聴いた方が分かりやすい	1	1.2
・無記入	22	25.9

また、練習の成果に対し、「やればできる」と「やる気」の評価が、学習者にとって励みになっていることが分かった。自己肯定感による学習意欲の喚起がみられた。

また、「ていねいな弾き方」など、「～のような弾き方」という細やかな観点に目が届いていることに喜びを感じている様子が見られた。

### 3-3. キーワードの無効性について

「指導者の言葉がけの中で、どんな言葉が『理解できなかった』か」の質問は自由記述で回答を得た。その結果、「特になし」と回答したのは24名、「なし」と回答したのは31名で、全体の3分の2の学習者が「理解できなかったことはない」と回答している。また、自由記述をみると、「わかりやすいコメントでよく理解できた」、「理解できなかったことは一つもなかった」という肯定的なものがほとんどであった。これらのことから、指導者が学習者に分かりやすい言葉や文章を選択し、適切な言葉がけが行われている成果ととらえられる。指導者は、学習者一人ひとりを細かく観察し、その日の授業でのチェックポイントの補足や、学習状況に応じた継続的な励ましの言葉でコメントをしていることが、学習者に十分伝わっていた。

次に、22名の無記入を考えてみる。無記入は、質問の趣旨が理解できなかったか、無関心に由来するかもしれない。しかし、2.「指導者の言葉がけの中で、どんな言葉が『励みになった』と思うか」(質問1)の質問に対し、学習者が言葉がけに対して肯定的な自由記述をしていることから、無記入であっても、「理解できなかったことはない」と捉えるのが妥当と考える。自由記述では、指導者の言葉がけは「楽しみ」、「嬉しかった」、「頑張ろうと思える」、「やる気につながる」などの言葉が多くみられ、指導者の言葉がけをしっかりと理解し、意欲の向上につ

なげていることから、理解できなかった言葉がけがほとんど無かったと捉えられる。

以上の結果から、「先生の言葉がけの中で、理解できなかった言葉」はみられず、言葉がけを生かして指導者と学習者が良好な関係を築き、授業が円滑に進められているものと考えられる。

### 3-4. 指導者の言葉がけによる観点的有効性について

「指導者からの文字化した言葉がけが学習者の練習意欲の向上に有効であったか」の問いに対する回答は、有効とする『6』、『5』の評価が半数以上であった。学習者にとって指導者の言葉がけは、面と向かって指導される時には得られない満足を感じていることがうかがえる。また、指導者からのコメントに対し、自分を客観視出来ることが述べられていた。さらに、指導者からの「励まし」や「評価」のコメントはモチベーションの向上につながるとうかがえた。しかし、有効と思わないという『2』と『1』の回答が7.1%あった。その理由の記述をみると「書くことがない」、「手間がかかる」、「書くのが大変」であり、記録する行為への抵抗感や、何のために記録するかという意味づけの希薄さがうかがえた。無記入に関しては、このような取り組みへの無関心さによるものかもしれない。

この結果から、有効と答えた回答者ほど、学習者自身の練習ためになっていると積極的な学習姿勢が見られるが、無関心である学習者がいることも特徴的であった。「先生からのコメントは、頑張ろうと思える」という記述が多いことから、孤独な自主練習に指導者の見守りの存在を意識でき、意欲が上がる様子がみられた。一方で、書く時間の少なさ、書くことへの抵抗感が全体を通してみられ、今後の課題であろう。

表7 “評価的やりとり”は、練習意欲の向上に有効だと思いますか n=85

評価⇒	6有効	5	4	3	2	1	無記入
人数	27	21	18	9	2	4	4
割合(%)	31.8	24.7	21.2	10.6	2.4	4.7	4.7

#### IV. 全体的考察と今後の課題

今回のキーワードの調査で、どの週も指導者からの激励、やる気に繋がる言葉がけが多様であることが分かった。その多様性が指導者の学習者に対する教育の専門性の高さと捉えられる。その指導者の言葉がけを9割以上の学習者が、毎回しっかりと読み、励みにしている。そして“評価的やりとり”を半数以上の学習者が有効であると答えていた。その反面、書く時間がなかったことや、書くことは面倒だと感じる学習者も存在した。その対処として、レッスンを妨げない範囲で記録が書ける配慮をする必要がある。内容に関しては、指導者側の観点として、「励まし」と「評価」の2種類が存在し、どちらも学習者の意欲を喚起していたことが分かった。しかし、「頑張る」という言葉は、励ましの意味があるが、いつも頑張っている学習者がこれ以上頑張れない、無理だと捉えられる場合もあるかもしれない。指導者が励ましのつもりで「頑張って」を使うことにより、努力をしているのにその言葉を用いることの逆効果も考えられる。このように、同じ励ましの言葉でも、「この調子で」、「大丈夫だよ」、「できるよ」等、様々な使い方により、受け止める学習者にとって前向きに解釈できるのではないかと考えられる。「評価」では、学習者個々の細やかな観察の下、適切な評価こそが学習者の『励みになった』との回答を得られたと考える。自己肯定感を持つことができた学習者は将来、保育者となった現場でも自律的に取り組み、かつて指導者から提供された「楽しさ」の観点を子どもたちに伝えられると考えられる。

一方、学習者は卒業後保育現場において、ピアノ技能の厳しい現実と向き合うことになるであろう。養成校の役割として、学習者の甘えや依存を払しょくし、自律的学習・協働学習を身につけられる学習環境を目指している。その1役として、指導者は常に目的意識を持ち自律的学習ができる人に育てる使

命を持ち、適時適切な言葉がけが望まれる。今回の取り組みでは、その成果の一端がうかがわれた。

この調査は、1年間のうち7週間分という学習の初動時期に焦点を当てた分析であった。この7週分は年間の4分の1の経過でもある。今後の課題として、学習過程による指導者の観点の調査を継続し、1年間の言葉がけの変容を見て、学習者と学習過程にあった言葉がけについて検証していきたい。

#### 引用文献

- 杉山祐子(2014)「ピアノ学習者の自律的学習を進めるための“評価的やりとり”の試み」全国大学音楽教育学会紀要 第25号, p.11-20.
- 長松正康, 臼坂高司, 川田正男, 山本透, 山根八洲男(2014)「制御工学的アプローチに基づく教師—学習者間モデルに関する考察」電気学会論文誌C Vol.134 No.10, pp.1537-1538.
- 杉山祐子, 今村初子, 葛谷悦子, 田中智子, 富沢杏安音, 丹羽美枝子, 橋本亜紀, 村瀬潤子, 森摩樹, 和田早苗, 岡田泰子(2017)「ピアノ指導における2名の指導者と学習者による“評価的やりとり”の有効性について」中部学院大学・中部学院大学短期大学部 研究紀要18号, p.155-164.

なお、この研究は、「音楽Ⅱ（ピアノ技能）」における実践をもとに、12名で研究を進めた。

各担当箇所を以下に示す。

I.・II.・III.-1.・IV.: 杉山祐子

III.-2-1.: 今村初子 III.-2-2.: 葛谷悦子

III.-2-3.: 田中智子 III.-2-4.: 富沢杏安音

III.-2-5.: 丹羽美枝子 III.-2-6.: 橋本亜紀

III.-2-7.: 村瀬潤子 III.-3-1.: 森摩樹

III.-3-2.: 山田かおり III.-3-3.: 和田早苗

III.-3-4.: 岡田泰子